

Title	平成16年度退職教員略歴・主要業績
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院文学研究科紀要. 46 P.89-P.95
Issue Date	2006-03
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/8547">http://hdl.handle.net/11094/8547</a>
DOI	
rights	本文データはCiNiiから複製したものである
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 平成16年度

### 退職教員略歴・主要業績

- ・ 都出比呂志 教授 考古学講座（考古学）
- ・ 肥塚 隆 教授 芸術史講座（美術史学）
- ・ 中村 生雄 教授 日本学講座（日本学）

つで ひろし  
都出 比呂志 教授 略歴・主要業績

略 歴

- 1942年1月1日 大阪市生まれ  
 1960年 大阪府立高津高校卒業  
 1960年 京都大学文学部卒業（考古学）  
 1966年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了  
 1968年 京都大学大学院文学研究科博士課程中退  
 1968年 京都大学文学部助手  
 1977年 滋賀大学教育学部助教授  
 1979年 大阪大学文学部助教授  
 1988年 大阪大学文学部教授  
 1989年 第2回 濱田青陵賞受賞。  
 1996年 大阪大学評議員（1998年まで）  
 1997年 雄山閣考古学特別賞受賞（共同）  
 2004年 八日市市教育功労賞。  
 2005年3月 大阪大学を定年により退職

学会関係役員

- 日本考古学協会委員（1970～1980年）  
 考古学研究会代表委員（1994～1995年）  
 古文化財学会評議員（1970～2005年）  
 条里制・古代研究会評議員（1970～2005年）

主要編著書

- 1 『古墳時代の王と民衆』（編著）講談社，1986
- 2 『竪穴式石室の地域性の研究』（単著）大阪大学文学部国史研究室，1986.3
- 3 『日本農耕社会の成立過程』（単著）岩波書店，497頁，1989.2
- 4 『古代史復元6 古墳時代の王と民衆』（編著），講談社，1989.6
- 5 『鳥居前古墳—総括編—』（福永伸哉と共編），大阪大学文学部考古学研究室，1990.3
- 6 『長法寺南原古墳の研究』（編著），長岡京市教育委員会，161-170頁，1992
- 7 『雪野山古墳の研究』（編著），雪野山古墳発掘調査団，1996.3
- 8 『古代国家の胎動』（単著）NHK 人間大学1998①-③期，日本放送出版協会，129頁，1998.1

- 9 『古代国家はこうして生まれた』（編著）角川書店，850頁，1998.2
- 10 『王陵の考古学』（単著）岩波新書676，岩波書店，197頁，2000.6
- 11 『前方後円墳と社会』（単著）塙書房，2005.9

### 主要学術論文

- 1 「農具鉄器化の二つの画期」『考古学研究』51，考古学研究会，36-51頁，1967.2
- 2 「古墳成立前夜の集団関係」『考古学研究』80，考古学研究会，20-47頁，1974.3
- 3 「農業共同体概念の歴史的位置」『新しい歴史学のために』154，民主主義科学者協会京都支部歴史部会，1-11頁，1979.2
- 4 「前方後円墳出現期の社会」『考古学研究』103，考古学研究会，17-34頁，1979.12
- 5 「畿内第五様式における土器の変革」『考古学論考』小林行雄博士古稀記念論文集，平凡社，215-243頁，1982.5
- 6 「環濠集落の成立と解体」『考古学研究』116，考古学研究会，14-32頁，1983.3
- 7 「古代水田の二つの型」『展望 アジアの考古学』樋口隆康教授退官記念論集，新潮社，394-410頁，1983.3
- 8 「弥生土器における地域色の性格」『信濃』35-4，245-257頁，1983.4
- 9 「弥生時代住居の東と西」『シリーズ日本を考える1 言葉と文化』，凡人社，95-124頁，1986.6
- 10 「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』22 史学篇，大阪大学文学会，1-16頁，1988.12
- 11 「日本古代の国家形成論序説—前方後円墳体制の提唱」『日本史研究』343，日本史研究会，5-39頁，1991.3
- 12 「前方後円墳体制と民族形成」『待兼山論叢』27 史学篇，大阪大学文学会，1-26頁，1993.12
- 13 「前方後円墳体制と地方権力」『日本古代国家の展開』上，思文閣，49-72頁，1995
- 14 「国家形成の諸段階—首長制・初期国家・成熟国家」『歴史評論』551，校倉書房，3-16頁，1996.3
- 15 「都市の形成と戦争」『考古学研究』174，考古学研究会，41-57頁，1997.9
- 16 「墳丘墓の比較考古学—異なる墳丘形式の意味」『国家形成期の考古学—大阪大学考古学研究室10周年記念論集』大阪大学考古学研究室，3-27頁，1999.4

なお研究業績の詳細については，都出比呂志『阪大考古学と私—都出比呂志業績目録—』（2005年3月）を参照。

こえづか 肥塚 たかし 隆 教授 略歴・主要業績

1941年8月21日 兵庫県姫路市生まれ

**学 歴**

- 1960年(昭和35)3月 兵庫県立姫路西高等学校卒業
- 1960年(昭和35)4月 京都大学文学部入学
- 1964年(昭和39)3月 京都大学文学部哲学科(仏教学)卒業
- 1964年(昭和39)4月 京都大学大学院文学研究科修士課程宗教学(仏教学)進学
- 1966年(昭和41)3月 同上修了
- 1966年(昭和41)4月 京都大学大学院文学研究科博士課程宗教学(仏教学)進学
- 1969年(昭和44)12月～1972年(昭和47)3月 デリー大学サンスクリット学部留学
- 1973年(昭和48)3月 京都大学大学院文学研究科博士課程宗教学(仏教学)単位取得退学

**職 歴**

- 1974年(昭和49)5月 大阪大学助手(文学部)
- 1976年(昭和51)4月 大阪大学講師(文学部)
- 1979年(昭和54)4月 大阪大学助教授(文学部)
- 1989年(平成元)4月 大阪大学教授(文学部)
- 1995年(平成7)6月～1997年(平成9)5月 大阪大学評議員
- 1998年(平成10)4月 大阪大学教授(大学院文学研究科)
- 1999年(平成11)8月～2001年(平成13)7月 大阪大学評議員・大学院文学研究科長
- 2002年(平成14)4月 大阪大学教授(総合学術博物館)
- 2002年(平成14)4月～2005年(平成17)3月 大阪大学総合学術博物館長
- 2005年(平成17)3月 大阪大学を定年により退職
- 2005年(平成17)4月 大阪人間科学大学および大阪薫英女子短期大学学長に就任

**主要業績**

[著 書]

- 『美術にみる釈尊の生涯』平凡社、1976.
- 『ガンジスの聖地』講談社、1976.
- 『インド美術Ⅰ・Ⅱ』(編集)＜週刊朝日百科世界の美術83・84＞朝日新聞社、1979.
- 『静かなるインド』(共著)＜新潮古代美術館9＞新潮社、1981.
- 『仏像の源流をたずねて』＜天竺への旅第2集＞学習研究社、1983.
- 『岩宮武二写真集アジアの仏像』(共編)2巻、集英社、1989.
- 『インド・東南アジアの文様』(共編)＜世界の文様4＞小学館、1992.
- 『インド宮廷文化の華』(編集)NHK、1993.

「インド(1)(2)」(共編) <世界美術大全集東洋編13・14>小学館, 1999, 2000.

『東南アジア』(編集) <世界美術大全集東洋編12>小学館, 2001.

科研費報告書『東南アジア彫刻史における<インド化>の再検討』(編集) 2巻, 大阪大学総合学術博物館, 2005.

[学術論文]

「瞑想と造形—インド美術における一つの基礎概念」『南都佛教』20(1967), 60-79頁.

「バーダーミーの初期チャールキヤ朝美術」上野照夫『インド美術論考』平凡社, 1973, 303-330頁.

「Satavahana 朝の仏教石窟」『日本仏教学会年報』38(1973), 39-57頁.

「南インドのヒンドゥー教石窟(上)(下)」『佛教藝術』93(1973), 37-65頁, 98(1974), 3-28頁.

「アイホーレの初期チャールキヤ朝美術」『佛教藝術』102(1975), 3-22頁.

「インドの仏伝美術」『南都佛教』35(1975), 87-111頁.

「インドにおける仏誕生の図像」『美術史』90-92(1976), 58-71頁.

「『從三十三天降下』図の図像」『待兼山論叢美学編』11(1978), 29-48頁.

「インドの涅槃図」元興寺文化財研究所『仏教法会の調査—涅槃会調査報告書—』1979, 12-20頁.

“Religious Sites along the River Betwa,” *A Comprehensive Survey of Prehistoric and Tribal Arts in Madhyapradesh, India*, Osaka: Faculty of Letters, Osaka University, 1981, pp.55-67.

“An Inscribed Bharhut Relief with a Scene from the Life of the Buddha,” *Proceedings of the Thirty-First International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa*, Tokyo: The Institute of Eastern Culture, 1984, pp.626-627.

「マトゥラーにおけるグプタ古典様式の展開」『佛教藝術』156(1984), 80-96頁.

「大乘仏教の美術—大乘仏教美術の初期相—」平川・梶山・高崎編『大乘仏教とその周辺』春秋社, 1985, 263-291頁.

「ボロブドゥールの説話図とテキスト—『スダナ王子とマノーハラーの物語』浮彫の検討」『民族藝術』3(1987), 77-90頁.

「仏像の誕生と大乘仏教美術の始源」原田・太田編『日本の美術』昭和堂, 1989, 5-24頁.

「莫高窟第275窟交脚菩薩像与犍陀羅的先例」『敦煌研究』1990-1, 16-24頁.

「インドの巡礼」懷徳堂記念会編『道と巡礼—心を旅するひとびと』和泉書院, 1993, 81-114頁.

「美術史研究における画像データ援用の試み」大阪大学21世紀 COE プログラム, インターフェイスの人文報告書『映像人文学』2004, 38-45頁.

なかむら いくお  
中村 生雄 教授 略歴・主要業績

略 歴

- 1946年7月 静岡県生まれ
- 1969年3月 京都大学文学部卒業（宗教学専攻）
- 1979年3月 法政大学大学院人文科学研究科修士課程修了（日本文学専攻）
- 1989年4月 静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科助教授
- 1994年1月 同上教授
- 1996年7月 大阪大学文学部人文学科教授（日本学講座）
- 1999年4月 大阪大学大学院文学研究科教授（文化形態論専攻）
- 2005年3月 同上退職
- 2005年4月 学習院大学文学部日本語日本文学科教授

主要業績

[単著]

- 『カミとヒトの精神史—日本仏教の深層構造—』（人文書院，1988年6月）
- 『日本の神と王権』（法蔵館，1994年4月）
- 『折口信夫の戦後天皇論』（法蔵館，1995年11月）
- 『祭祀と供儀—日本人の自然観・動物観—』（法蔵館，2001年3月）

[共編著]

- 『こころとことばに東西の接点を求めて』（北樹出版，1990年7月）
- 『死の文化誌—心性・習俗・社会—』（昭和堂，2002年10月）
- 『いくつもの日本』（全7巻）（岩波書店，2002年10月～2003年5月）

[共著]

- 『絶望からの出発』（山折哲雄監修『親鸞・その人と教え』すずき出版，1984年6月）
- 『巡礼と文明』（聖心女子大学キリスト教文化研究所編，春秋社，1987年11月）
- 『日本思想2』（『講座東洋思想』16，岩波書店，1989年3月）
- 『漂泊する眼差し』（『叢書史層を掘る』5，新曜社，1992年1月）
- 『日本における女性』（名著刊行会，1992年1月）
- 『Referate des 2.Japanologentages der OAG in Tokyo』（Ernst Lokowandt 編，iudicum-verlag, Munich, 1992年3月）
- 『宗教時代への挑戦』（春秋社，1993年7月）
- 『信と知』（慶応通信，1993年10月）

- 『奈良時代の僧侶と社会』（雄山閣出版，1994年4月）
- 『日本の神1』（平凡社，1995年5月）
- 『カリスマ』（春秋社，1995年8月）
- 『蓮如・転換期の宗教者』（小学館，1997年9月）
- 『身体と心性の民俗』（『講座日本の民俗学』2，雄山閣，1998年1月）
- 『宗教と社会生活の諸相』（『沼義昭博士古稀記念論文集』隆文館，1998年3月）
- 『日本人の思想の重層性』（筑摩書房，1998年4月）
- 『宗教その原初とあらわれ』（『叢書・転換期のフィロソフィー』4，ミネルヴァ書房，1999年5月）
- 『新しい教養のすすめ・宗教学』（昭和堂，1999年5月）
- 『観音信仰事典』（戎光祥出版，2000年1月）
- 『「根拠」への探究』（『シリーズ近代日本の知』5，晃洋書房，2000年12月）
- 『宗教の根源性と現代』（晃洋書房，2001年3月）
- 『生と死の文化史』（懐徳堂記念会編，和泉書院，2001年6月）

#### [論文]

- 「景戒の回心と『日本霊異記』」（『文学』48-1，岩波書店，1980年1月，73-90頁）
- 「『日本霊異記』の夢」（『宗教研究』244，1980年6月，25-47頁）
- 「聖人と聖遺物」（『比較思想研究』16，1990年3月，151-160頁）
- 「くニッポン自然教」批判」（『仏教』35，法蔵館，1996年4月，22-42頁）
- 「近代日本の宗教と国家」（『近代日本文化論』9，岩波書店，1999年3月，55-78頁）
- 「日本の『近代』と『自己』について」（『日本学報』19，2000年3月，69-84頁）
- 「加藤玄智の神道学と生祠研究」（『宗教研究』325，2000年9月，121-144頁）
- 「『食国』の思想」（今谷明編『王権と神祇』思文閣出版，2002年6月，315-337頁）
- 「即位儀礼—王の誕生と国家—」（『天皇と王権を考える』5，岩波書店，2002年7月，19-39頁）
- 「『殺す文化／食べる文化』再考」（『宗教哲学研究』20，2003年3月，84-92頁）
- 「喜田貞吉の見た日本仏教」（『日本仏教総合研究』1，2003年5月，27-43頁）
- 「く古代」の表象—喜田貞吉の古代史研究と東北—」（『日本学報』23，2004年3月，1-15頁）
- 「『肉食妻帯』問題から見た日本仏教」（『GYROS』6，2004年9月，90-101頁）
- 「殺生の逆説」（『講座宗教』7，岩波書店，2004年8月，117-142頁）
- 「『鉄砲を捨てなかった日本人』のこと」（『季刊東北学』3，2005年4月，64-75頁）
- 「戦没者慰霊と遭難者慰霊の遭遇」（『季刊東北学』4，2005年7月，150-156頁）